

Pentecost(聖霊降臨), 聖霊が突風のごとく降りてきて、弟子たちの心に理解をもたらした。聖霊降臨。戸に鍵を掛けて恐れおののく信仰共同体に、イエスが入ってこられた時である。聖霊降臨、『平和があるように』とイエスが言われると、聖霊の息を吹き掛けられた。唯一の真実であったなら、あなたがこの聖霊降臨を聞くなら、受け取ってほしい。聖霊降臨—「神はあなたと共におられる」という意味である。みなさんに主の平和があるように。神はまことに最初から私たちの中に臨在されている。

創世記にこのことが書かれている。『その日、主なる神は天地を造られた』(創 2:1)。最初の日、『主なる神は、土の塵で人を形作り、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった』(創 2:7)。

ヘブライ語にごろ合わせがある。人の名前はアダム(Adam)、土から造られた, Adamah。私たちは土の一部であり、神の息の一部である。創造主なる神は、私たちの存在の一部である。神は私たちと共におられる。息を吸い込む。息を吐く。息を吸い込む。息を吐く、神が創造された存在をあなたがたに満ちるのを感じよう。

今日の福音書を覚えているだろうか、弟子たちは恐れて二階の部屋に鍵を掛けていた。「それは週の初めの日の夕方」(ヨハネ20:19)。気をつけよう、ユダヤ人の慣例では、その日は夕方から始まる—従ってこの節の意味は—(夕方)初めの日である。初めの日、「イエスは弟子たちに『あなたがたに平和があるように』と言われた」。「イエスは重ねて言われた。『あなたがたに平和があるように』。そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。『聖霊を受けなさい』」(ヨハネ20:21-22)。

今日の日課にこの箇所がある。今日は週の初めの日である。今日、再出発するのだ。

私たちは常に再出発をしている。周りの世界から私たちは形作られている。

私たちは、私たちに起きるすべてを学ぶことによって変化させられる。

今週、ある話を一緒に働く人から聞いた、アル中疾患と暮らしていた人々のことであった。日がよく当たる庭で私の横に立ち、彼女は7年間の苦闘の話を私に聞かせた。

新しい世界の目が開くのが分かった。私は変化した。少しの変化かもしれないが、今でも、今の世界が少し異なっているように感じる、彼女に横に立ち、その過去を聞いた後に。

各々の私たちは、友達や家族との関係で形作られている。

私たちは食物を食し、水やワインを飲むように造られている。

今日も含めた毎日、私たちは新たに造られている。成長する、あるいは歳を取るにつれ、新しい事実を知り、古い事実を思い出す。新しい日々の度に、私たちは再び形造られる。

この聖霊降誕日、毎日、再び『聖霊に満たされる』（使徒言行録2:4）。  
息を吸う、息を吐く、そして息を吸って、聖霊があなたに満ちるのを感じる。

#### 呼吸をする

私たちの命はすべての呼吸に支えられている。創造主の神はその息で私たちを造られた。イエスは息のなかに、私たちの命を救済する聖霊を送られる。呼吸に注意を向けよう、多くのみなさんのは、私がほとんど毎日、呼吸の時間を取っているのを知っている。そうです、呼吸をしよう。呼吸をして動く、呼吸をして伸ばす、呼吸をして瞑想する、ヨガ、祈りに集中する。私は毎日、仕事の思考を静止するようにしている、それによって私は呼吸の中に神の存在を感じることができる。

この訓練は私の信仰を高めるための中心になっている。であるから共有したい。憶えているかもしれないが、各々が礼拝全体に渡って呼吸訓練を経験をするように勧めた。告白と祈りを通して癒しの呼吸をする。歌と祈りを通して世界に愛の息を吐く。共に聖霊を息で吸い込む。すべての苦痛、恐れ、罪を息で吐く。神の癒しを息で吸い込む。神の平和を息で吸い込む。

今である、神の平和を信頼すること。聖霊を信頼すると、呼吸をする度に私たちは満ちる。恐れについて語ろう。心の扉に鍵を掛けることについて話そう。私たちが恐れる時は鍵を掛ける。私たちと、私たちを傷つけるかもしれない周りの人々との間に、私たちは障壁を築く。（ちょっと脇に置いて—このことを聞いてほしい。安全性が必要な時、危害を及ぼす人々や場所から切り離れるのはよい事であり正しい事とである。現在危険にさらされているどんな人にとって、恐れは警告である。それは私たちを変更させるのに必要であり、私たちを栄える場所へと導いて行く）。多くの恐れは建設的ではない。今日、私は破滅の恐怖について語っている。それは私たちの間にある障壁である。私は恐れについて語っているが、恐れは私たちを閉じ込め、私たちを人々や神から私たちを切り離す。

この聖霊降臨日に世界を眺めてみると、そこには多くの恐れがあるのに私は気付く。私たちは体に変化する恐れを共有している。歳を取ることは恐れになっている。そして、病気、病弱は、私たちについてでも起こりうる。体の節々が痛む、恐れになる。そして各々の私たちは、いつかは死ぬ。自分自身の時間に生きている各々の私たちは、この命から永遠に続く命への教えを作る。私たちは神の永遠の命を信頼していると言える。しかし現実には、信頼することはより困難である。聖霊を息で吸い込む、その恐れを息で吐く、神の平和を息で吸い込む。自分の心に鍵を掛けない。神はあなたとともに、今もいつもおられる。



私たちは脆い<sup>もろ</sup>結付きの恐れを共有している。私たちは、今の私たちが認められ、愛されていることを切望している。人間は社会に帰属するために造られている。しかし帰属していても、どんな社会も、健全な社会であっても、レスリングのような小さな葛藤がある。どのように時間を過ごすか、どのように財源を割り当てるか、私たちは言い争う。私たちは、私たちが評価することに名付けたり、優先させることに葛藤する。どのように尊厳、信頼、帰属を経験するか、私に言わせないでほしい。経験は、その人の視点、文化によってすべてが異なるからだ、天候さえも。本当である。天候は周りの人々を私たちがどのように感じるかを左右させる。社会に帰属することは、繁栄する社会でさえも、困難なことであるのは驚きだろうか？

従って心を閉ざす。帰属する機会を壊してしまう。社会が私たちが傷つける前に、社会（との関係）を終わらせてしまう。なぜなら恐れるからだ。私の心を閉ざそうとする試みを知っている。あなた方はその試みを知っていると思う。私は、拒絶から自分自身の安全を保つ試みを感じたことがある。毎日、私が訓練をしている事を話しただろうか？ 癒しを息で吸い込む、苦痛を息で吐く、聖霊を息で吸い込む。

私たちは恐れる。体や命のために恐れる。心や社会のために恐れる。人生の一部は恐れである。そして、それから、全世界がある。私は恐れる、気候がどのように変動しているか。私は恐れる、すべての軍事行動を。私は恐れる、経済の悪用、日々の多くの交わりに存在する人種偏見。私は恐れる、私の目を開くとすべての人間の不当さが見えるのが。それは試みであり、恐れが存在する試みに責任がある。怒るのは、自分の恐れ、非難、他人や自分自身を恥とすることがあるからだ。怒りからくる私の恐れを、私自身に閉じ込める準備をする、神の平和を思い出す、そして再び呼吸の訓練をする。再び癒しを息で吸い込む、苦痛や恐れを息で吐く、聖霊を息で吸い込む。

どのように生きるのか、聖霊のなかで？ どのように生きるのか、聖霊降臨日の後は？ どのように生きるのか、私たちの心を閉じ込める世界で、その鍵を投げ捨てる世界で？ 聞いてほしい。イエスは鍵が下ろされた部屋に入ってこられた。ある時は、何も（信仰さえも）必要でないことがある。これらの時は、破滅的恐れである、呼吸することを勧める。地上に根付いた聖霊の呼吸のなかにとどまろう。必要なだけ何回も、息を吸い込む、恐れを息にする。息を吸い込む、そしてイエスの平和があなた方に満ちるのを感じよう。

(文責長澤猛)